

# G8

G8 Screening tool			
	質問項目	該当回答項目	点数
A	過去 3 か月間で食欲不振、消化器系の問題、そしゃく・嚥下困難などで食事が減少しましたか	0 : 著しい食事量の減少 1 : 中等度の食事量の減少 2 : 食事量の減少なし	
B	過去 3 か月間で体重の減少はありましたか	0 : 3kg 以上の減少 1 : わからない 2 : 1~3kg の減少 3 : 体重減少なし	
C	自力で歩けますか	0 : 寝たきりまたは車椅子を常時使用 1 : ベッドや車いすを離れられるが、歩いて外出できない 2 : 自由に歩いて外出できる	
E	神経・精神的問題の有無	0 : 高度の認知症または鬱状態 1 : 中程度の認知障害 2 : 精神的問題なし	
F	B M I 値	0 : 19 未満 1 : 19 以上 21 未満 2 : 21 以上 23 未満 3 : 23 以上	
H	1 日に 4 種類以上の処方薬を飲んでいますか	0 : はい 1 : いいえ	
P	同年齢の人と比べて、自分の健康状態をどう思いますか	0 : 良くない 0.5 : わからない 1 : 同じ 2 : 良い	
	年齢	0 : 86 歳以上 1 : 80 歳~85 歳 2 : 80 歳未満	
	<b>合計点数(0~17)</b>		

本質問紙は G8 原版をもととし Mini Nutritional Assessment(MNA®)日本語版より該当する項目を引用しています。作成にあたり国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) の革新的がん医療実用化研究事業の支援を受けています。

## 手段的日常生活活動（IADL）尺度

項目	採点
<b>A 電話を使用する能力</b>	
1. 自分から電話をかける（電話帳を調べたりダイヤル番号を回すなど）	1
2. 2-3 のよく知っている番号をかける	1
3. 電話に出るが自分からかけることはない	1
4. 全く電話を使用しない	0
<b>B 買い物</b>	
1. すべての買い物は自分で行う	1
2. 小額の買い物は自分で行える	0
3. 買い物に行くときはいつも付き添いが必要	0
4. まったく買い物はできない	0
<b>C 食事の準備</b>	
1. 適切な食事を自分で計画し準備し給仕する	1
2. 材料が供与されれば適切な食事を準備する	0
3. 準備された食事を温めて給仕する、あるいは食事を準備するが適切な食事内容を維持しない	0
4. 食事の準備と給仕をしてもらう必要がある	0
<b>D 家事</b>	
1. 家事を一人でこなす、あるいは時に手助けを要する（例：重労働など）	1
2. 皿洗いやベッドの支度などの日常的仕事はできる	1
3. 簡単な日常的仕事はできるが、妥当な清潔さの基準を保てない	1
4. 全ての家事に手助けを必要とする	1
5. 全ての家事にかかわらない	0
<b>E 洗濯</b>	
1. 自分の洗濯は完全に行う	1
2. ソックス、靴下のゆすぎなど簡単な洗濯をする	1
3. 全て他人にしてもらわなければならない	0
<b>F 移送の形式</b>	
1. 自分で公的機関を利用して旅行したり、自家用車を運転する	1
2. タクシーを利用して旅行するが、その他の公的輸送機関は利用しない	1
3. 付き添いがいたり皆と一緒に公的輸送機関で旅行する	1
4. 付き添いか皆と一緒に、タクシーか自家用車に限り旅行する	0
5. まったく旅行しない	0
<b>G 自分の服薬管理</b>	
1. 正しいときに正しい量の薬を飲むことに責任がもてる	1
2. あらかじめ薬が分けて準備されていれば飲むことに責任がもてる	0
3. 自分の薬を管理できない	0
<b>H 財産取り扱い能力</b>	
1. 経済的問題を自分で管理して（予算、小切手書き、掛け金支払い、銀行へ行く）一連の収入を得て、維持する	1
2. 日々の小銭は管理するが、預金や大金などでは手助けを必要とする	1
3. 金銭の取り扱いができない	0

手段的 ADL<sup>※</sup>（Lawton の評価法の女性用）

※ Lawton MP, Brody EM. Assessment of older people: self-maintaining and instrumental activities of daily living. Gerontologist. 1969;9:179-86.

# チャールソン併存疾患指数 (Charlson Comorbidity Index)

オリジナル・バージョン\*より JCOG にて一部改変

		なし	あり
1	心筋梗塞(心筋梗塞の既往も含む)	0	1
2	うっ血性心不全(労作時呼吸困難、夜間呼吸苦、薬物療法に反応した例)	0	1
3	末梢血管疾患(間欠性跛行、バイパス術後、壊疽、未治療の胸腹部大動脈瘤(6 cm以上)を含む)	0	1
4	脳血管障害(後遺症のほぼない脳血管障害既往、一過性脳虚血発作)	0	1
5	認知症	0	1
6	慢性肺疾患(軽労作で呼吸困難を生じるもの)	0	1
7	膠原病(全身性エリテマトーデス、多発性筋炎、混合性結合組織病、リウマチ性多発筋痛症、中等度以上の関節リウマチ)	0	1
8	消化性潰瘍(消化性潰瘍の治療が必要な患者)	0	1
9	軽度肝疾患(門脈圧亢進を伴わない軽度の肝硬変、慢性肝炎)	0	1
10	糖尿病(3大合併症なし、食事療法のみは除く)	0	1
11	片麻痺(対麻痺も含む。脳血管障害に起因していなくても可)	0	2
12	中等度－高度腎機能障害(Cre $\geq$ 3 mg/d $\ell$ 、透析中、腎移植後、尿毒症)	0	2
13	糖尿病(3大合併症のいずれかあり、糖尿病性ケトアシドーシスや糖尿病性昏睡での入院歴)	0	2
14	固形がん(過去5年間に明らかに転移なし) <sup>注1)</sup>	0	2
15	白血病(急性白血病、慢性白血病、真性赤血球増加症) <sup>注1) 注2)</sup>	0	2
16	リンパ腫(リンパ肉腫、マクログロブリン血症、骨髄腫含む) <sup>注1) 注2)</sup>	0	2
17	中等度－高度肝機能障害(門脈圧亢進を伴う肝硬変)	0	3
18	転移性固形腫瘍	0	6
19	AIDS(Acquired immunodeficiency syndrome)	0	6

合計

137

注1) がんを対象とする臨床試験では、当該試験の対象となるがん種を、固形がん、白血病、リンパ腫、転移性固形腫瘍に含めない。

注2) 治癒が得られたと判断される場合は併存疾患と扱わない。

\* Charlson ME, Pompei P, Ales KL, MacKenzie CR. A new method of classifying prognostic comorbidity in longitudinal studies: development and validation. J Chronic Dis. 1987;40(5):373-383. doi: 10.1016/0021-9681(87)90171-8.

M Extermann, Measuring comorbidity in older patients, Eur J Cancer. 2000 Mar;36(4):453-71

# チャールソン併存疾患指数 (Charlson Comorbidity Index)

アップデート・バージョン\*

		なし	あり
1	心筋梗塞	0	0
2	うっ血性心不全(労作時呼吸困難、夜間呼吸苦、薬物療法に反応した例)	0	2
3	末梢血管疾患(間欠性跛行、バイパス術後、壊疽、未治療の胸腹部大動脈瘤(6 cm以上)を含む)	0	0
4	脳血管障害(後遺症のほぼない脳血管障害既往、一過性脳虚血発作)	0	0
5	認知症	0	2
6	慢性肺疾患(軽労作で呼吸困難を生じるもの)	0	1
7	膠原病(全身性エリテマトーデス、多発性筋炎、混合性結合組織病、リウマチ性多発筋痛症、中等度以上の関節リウマチ)	0	1
8	消化性潰瘍	0	0
9	軽度肝疾患(門脈圧亢進を伴わない軽度の肝硬変、慢性肝炎)	0	2
10	糖尿病(3大合併症なし、食事療法のみは除く)	0	0
11	片麻痺(対麻痺も含む。脳血管障害に起因していなくても可)	0	2
12	中等度－高度腎機能障害(Cre $\geq$ 3 mg/d $\ell$ 、透析中、腎移植後、尿毒症)	0	1
13	糖尿病(3大合併症のいずれかあり、糖尿病性ケトアシドーシスや糖尿病性昏睡での入院歴)	0	1
14	固形癌(過去5年間に明らかに転移なし) 白血病(急性白血病、慢性白血病、真性赤血球増加症) リンパ腫(リンパ肉腫、マクログロブリン血症、骨髄腫含む)	0	2
15	中等度－高度肝機能障害(門脈圧亢進を伴う肝硬変)	0	4
16	転移性固形腫瘍	0	6
17	後天性免疫不全症候群(AIDS)/ヒト免疫不全ウイルス(HIV)	0	4

合計

124

\* Quan H, Li B, Couris CM, Fushimi K, Graham P, Hider P, et al. Updating and validating the Charlson comorbidity index and score for risk adjustment in hospital discharge abstracts using data from 6 countries. Am J Epidemiol. 2011;173(6):676-682.

## 居住状況※

Q：以下の選択肢のなかで、あなたの居住状況に一番近いのはどれですか？

- 自宅（独居）
- 自宅（誰かと同居）
- 施設（例：高齢者向け住宅や介護施設など）

※ EORTC Minimum Dataset より抜粋（以下、原文）

Pallis AG, Ring A, Fortpied C, et al. Eortc workshop on clinical trial methodology in older individuals with a diagnosis of solid tumors. *Ann Oncol.* 2011;22(8):1922–1926.

### 3.4 Social situation

To be completed by: Clinician or trained coder.

Question to the patient:

*Which of the following statements best describes where you live?*

- At home by myself.
- At home with someone.
- In institutional care (for example residential home or nursing home).

病院 ID : \_\_\_\_\_

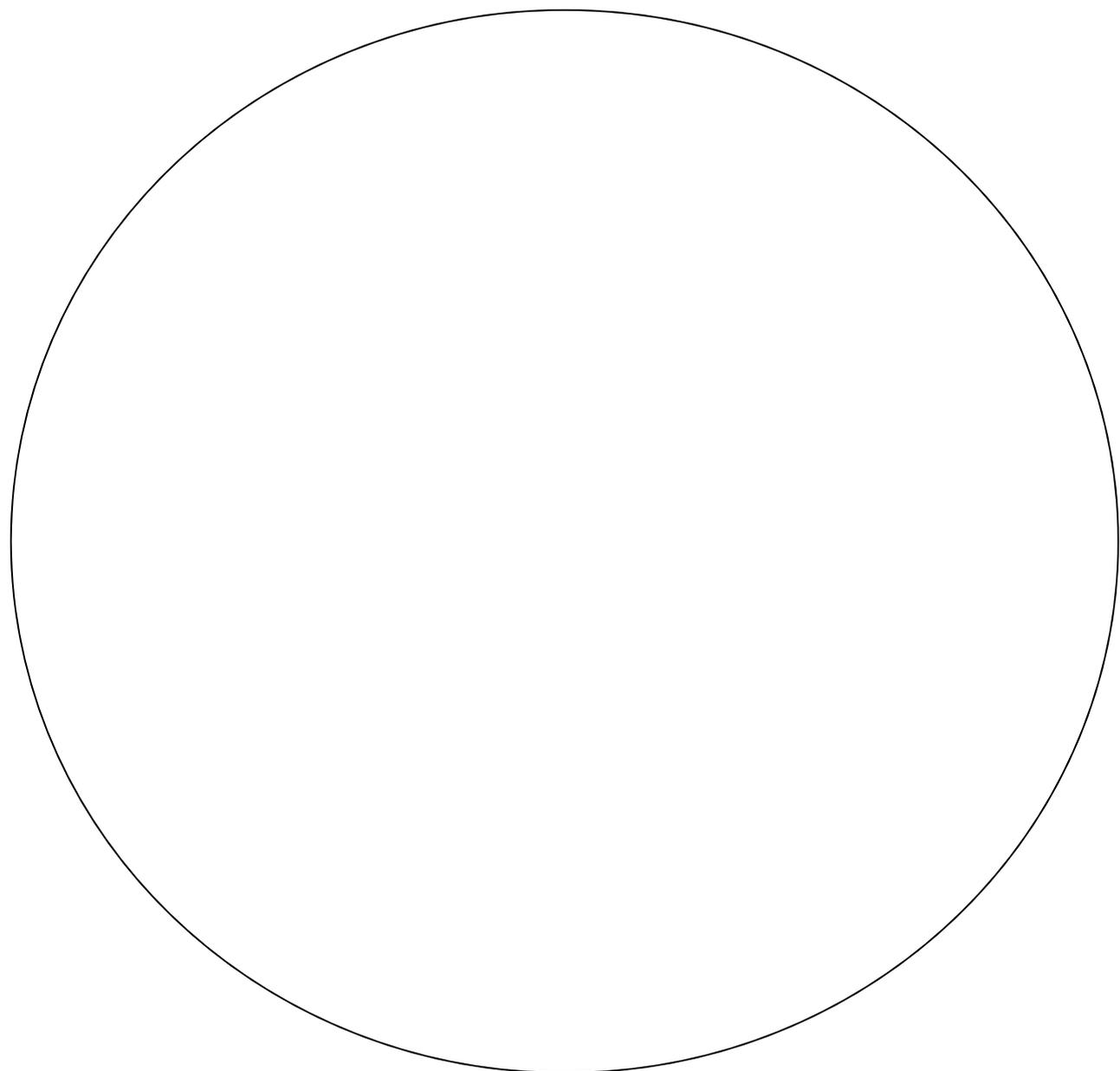
日付 : \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 開始時間 : \_\_\_\_\_ 時 \_\_\_\_\_ 分

実施者 : \_\_\_\_\_

番号	施行時の教示	スコアリング / 教示	得点
1	「私がこれから 3 つの単語を言いますので、それを覚えてください。その単語は（単語リストから選択）です。では、繰り返し返して言ってください」	<input type="checkbox"/> Version1 <input type="checkbox"/> Version3 <input type="checkbox"/> Version5 ・くるま      ・いちご      ・つばめ ・ねこ        ・うめ        ・すず ・たいよう    ・でんしゃ    ・はやし  <input type="checkbox"/> Version2 <input type="checkbox"/> Version4 <input type="checkbox"/> Version6 ・つばめ      ・きって      ・ひよこ ・うみ        ・そら        ・つき ・きって      ・くるま      ・たたみ	
2	「時計を描いてもらいます。」 「円の中にすべての数字を描いてください。」 （描き終わったら） 「11 時 10 分（もしくは 8 時 20 分）を示す針を描いてください。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 白紙もしくは予め円（円の一方）が印刷された紙を使用する</li> <li>・ 数字配置がほぼ正しく、針が <b>11 と 2</b>（または 4 と 8）を指しているものを正答反応とする</li> <li>・ 課題施行中、時計は患者の目に触れない場所に設置する</li> <li>・ CDT（時計描画）を拒否した場合、基準から外れたものとして記録する（0 点）</li> <li>・ <u>3 分以内に終わらない場合は、その時点で次の課題に移る</u></li> </ul>	0 2
3	「さっき覚えていただいた 3 つの単語はなんでしたか？」	※ヒントは与えない	0 1 2 3
		合計	/5
		認知症 : 0 (陰性) 1 (陽性)	0 1

スコアリング

3 単語再生	認知症陰性
1~2 単語再生 + CDT 正常	認知症陰性
1~2 単語再生 + CDT 特異	認知症陽性
0 単語再生	認知症陽性



本質問紙の作成にあたり国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の革新的がん医療実用化研究事業の支援を受けています。